

AI時代を生き抜く中で

藤岡市立東中学校

二年 田村 惇人

あなたは十年後、この世界がどうなっているか考えてみたことはありませんか。十年後、僕たちは、度重なる戦争、進む少子高齢化など、たくさんの課題に直面し、向き合っているのではないでしょうか。

そして、その中でも僕が特に注目したのが、「AI」です。今やAIは私たちの生活に深く入り込み、社会に大きな影響を与える存在となっています。

朝はAIに起こされ、学校ではAIに勉強を教えてもらい、悩み事まで人ではなくAIに相談し答えてもらう。そんな未来がもうすぐそこまで迫って来ているかもしれせん。非常に便利で楽な世界です。

皆さんは、このAIを使ってみたことはありませんか。「AIって本当に便利だね」「なんでもAIに答えてもらえるし、最高！」これは、僕のクラスで友達が話していた言

葉です。確かに、僕もAIを使うし、とても便利でいいなと思います。しかし今では、夏休みの課題である作文や、LINEの返信までAIに任せることができてしまします。

喧嘩した友達との仲直り、好きな人への告白、そんな自分の心がこもった大切なセリフさえも考えずAIに任せてしまつては、感情や気持ちを伝えることができなくなってしまうのではないのでしょうか。そう思うと僕は「本当にこれでいいのかな」と、何かを失っているような不安に襲われるのです。

そんな時、僕はある言葉を思い出しました。それは、「人間は考える葦である」という言葉です。これは、フランスの哲学者、ブレーズ・パスカルが説いた言葉で、人間は自然界の中では「葦のように弱く儂い存在」だが、「考える」ことができる点で尊厳と偉大さを持っているという意味です。この言葉は、僕にどんなことでも考えることが大切なのだと感じさせてくれます。

それに対し、AIは誰がみても明らかなほどに進化をしています。まるで、人が何もしなくていいと思えるほどに。確かにAIは便利で、教育、医療、気候変動対策など、さまざまな分野で、社会に貢献する可能性を秘めています。

AIが発展することで、社会が豊かになることは確かです。ですが、ここで疑問があります。「面倒だから」「楽だから」という理由でAIに「考える」ことまで任せてしまつて本当にいいのでしょうか。

AIに考えることまで任せてしまえば、確かに楽です。ですが、僕たちが思つてしまいがちな「楽＝素晴らしい」という考え方はおかしいのではないかと僕は思います。「考える」という行為は難しく、とても時間のかかることです。それでも、考えることで僕たちは成長することができると 생각합니다。

僕たち人類が、困難に悩まされ、考えてその末に生きる術を編み出してきたように、「考える」ことは未来を切り拓いていく力なのです。僕自身もこの少年の主張を書く中で、考えて、考えて、考え抜いて、その先にこの文章に辿り着きました。その結果、僕は、達成感と充実感、そして「自分自身」を、自分だけの「考え方」を見つけました。つまり、「考えること」は、自分自身をつくってゆくものなのです。だからこそ僕は、考えることを大切にしてほしいと思います。

僕は、AIがどれだけ進化しても、人が自分の頭で考え

ることの大切さは変わらないと思います。AIの便利さに頼りすぎず、自分の頭で考える力を失わないようにしなければなりません。考えることは大変で、時に苦しくなることもあると思います。しかし、その積み重ねこそが、あなたの将来の価値観や考え方を創ってゆくのです。これからの時代を生きる僕たちだからこそ、僕たちにしかできない「考えること」を大切にし、上手に向き合っていく必要があるのではないのでしょうか。そして、この「考える」ことの重要性が皆さんに伝わり、これからのAI時代を一人ひとりが「考えて」生き抜いていくことを強く願っています。

さて、最後に、皆さんはこの文章は、本当に僕が書いたものだと思いますか。

もちろん僕が書いたものですが、もしも「AIが全部書いていた」なんて言ったら僕たちは、何を信じれば良いのでしょうか。AIが普及し、僕たちだけにしかできない「考えること」が大切になってくるこれからの時代、僕たちが何を信じ歩んでいくのか、どんな「自分」をつくっていくのか、その答えを見つけるには自らと向き合い、問い続けるしかありません。さあ、みなさん一緒に考えていきませんか。